

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
301	国際政治経済学演習 I (久保慶一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久保 慶一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代世界の武力紛争と紛争後平和構築

授業概要 Course Outline

冷戦終焉後、旧ユーゴやルワンダをはじめ、スラブ・ユーラシア、アフリカ、中東、ラテンアメリカ、アジアなど新興国で起きている武力紛争（内戦）が人道的危機として国際社会の関心を集めている。これを受け、紛争を終結させるための武力介入（人道的介入）、紛争終結後の戦闘員の武装解除と社会復帰（DDR）、紛争中に起きた非人道的行為に関する真相究明と責任者の処罰（移行期正義）、紛争再発を予防するための政治経済機構の再建（紛争後国家建設）など、紛争の終結と再発防止のために国際社会による様々な取り組みが行われている。本演習では、武力紛争はなぜ発生するのか、その終結や再発防止のために国際社会が行う様々な取り組みにはどのような効果があるのか、といった諸問題について考察する。比較政治学では、紛争発生の際の要因や、国際社会による介入・政策の効果について、多くの理論や実証的研究の知見が蓄積されている。演習 I は、卒業論文を執筆するための出発点として、自分が選択したテーマに関する先行研究を各自が渉猟し、その内容に関するプレゼンテーションと質疑応答という形で進めていく。各自の研究テーマに関する基礎的な概念や理論について確認し、各分野の実証的知見を批判的に理解することを目的とする。各自の研究テーマの設定に際しては、地域や方法論に関する制限は特に設けない。多様な地域、方法論に関心を有する学生を歓迎するが、武力紛争・内戦の発生要因や国際社会の取り組みの効果に関する先行研究には、計量的な手法を用いた研究が多数あるので、計量分析手法に関する知識・スキルを有していることが望ましい。

授業の到達目標 Objectives

1. 内戦、紛争後平和構築に関する比較政治学の理論的・実証的な先行研究を批判的に理解する。
2. 演習参加者が卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関する先行研究のリサーチを開始する。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

第1回：オリエンテーション：ゼミの運営方法に関する説明、参加者の自己紹介、各週の発表者の分担の決定などを行います。

第2回～第13回：各自のテーマについての先行研究についてのプレゼン：ゼミ参加者が自分のテーマについての先行研究1～2点の内容を紹介するプレゼンテーションを行い、それに関する質疑応答を行います。先行研究の批判を通じて各自の研究テーマを絞り込んでいくことを目指します。

第14回：まとめ：春学期の議論を総括します。最後に、ゼミ参加者が各自の夏季休暇中の課題について発表します。

教科書
Textbooks

特になし。

参考文献
Reference Books

久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』有斐閣、2016年。
 粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年。
 久米郁男『原因を推論する－政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年。
 加藤淳子・境家史郎・山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの発表の内容、ディスカッションにおける発言・議論の内容などをもとに総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
 履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
 The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
 Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
302	国際政治経済学演習 I (久米郁男)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	久米 郁男
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

政治現象分析の技法：原因を推論する

授業概要 Course Outline

この演習の目標は日常起こっている様々な現象を政治学的に考える訓練を行うことにあります。政治的な紛争というものは、紛争当事者が理性的に話し合えば解決できるのでしょうか？人道的援助は、世界を平和にするのだろうか？政策のことをしっかり考えて皆が投票すればよい政治が実現するのでしょうか？経済が成長すれば、民主化するのでしょうか。新聞やテレビ、ネットでの「常識」とは少し違う角度から様々な政治経済現象を見ることによって政治学の世界を学びます。扱う対象は多様ですが、政治学とりわけ実証的・経験的な政治学における分析方法を学び、様々な政治現象が何故生じているのかを説明する能力を磨いてもらいます。

なお、ゼミがスタートするまでに統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっていることを前提にゼミを進行します。プレ演習では、そのための実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

3年生は、4年生ゼミにも参加することを求めます。

ゼミ合宿については、ゼミ生の希望があれば実施します。

授業の到達目標 Objectives

様々な政治現象を、他人の意見に簡単に説得されず、データや理論に基づいて社会科学的に分析し、自らの主張をディベート、プレゼン、論文の形で提示し、人を説得する能力の涵養を目指します。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミがスタートするまでに、統計ソフトを使って重回帰分析が出来るようになっていることを前提にゼミを進行します。プレ演習では、統計分析の手法についての実習を行います。事前の統計的知識は不要です。

授業計画 Course Schedule

前半において、教科書を用いて実証的な議論をする上での方法論的な課題について学ぶ。

後半においては、政治学の分野における論文を取り上げて、そこでの分析方法について検討を行う。

教科書 Textbooks

久米郁男『原因を推論する政治分析方法論のすゝめ』有斐閣

参考文献 Reference Books

課題文献を講義中に適宜指示します。

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	ゼミでの報告、課題提出、積極的な参加。
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

ゼミに関するより詳しい内容については以下のホームページに記載されています。応募前に必ず参照して下さい。なお、応募者は応募締め切りまでにA4一枚程度の自己紹介をkumezemi@gmail.comに送ってください。
<https://kobe.cloudfree.jp/kumezemi/>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
303	国際政治経済学演習 I (小西秀樹)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	小西 秀樹
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

経済政策の理論と実証

授業概要 Course Outline

この演習は、各学生が自分の関心にしたがって、論文を読み、仮説を立て、データを集めて解析したり、理論モデルを作って均衡解を解いたり、得られた結果を現実の事象にフィードバックしたりして、最終的には独力で卒業論文を作成する2年間のプログラムを想定しています。演習Iはその第1段階に相当し、卒論作成に必要な基礎訓練を行います。

最近では、政治でも経済でも、政府でも民間でも、意思決定の際に求められるのはエビデンスです。しかし、実際に「これがエビデンスだ」という主張は案外危ういものです。統計データにはいろいろな読み方があり、その基本を知らないと簡単に騙されてしまいます。

そこで演習Iでは、入門レベルの教科書を使って計量経済学の基礎を学び、データ分析の実習を行います。こういった基礎知識や技術はこれから社会に出ていく皆さんにとって必要不可欠の素養になるはずです。演習II以降で実証分析を手掛ける学生はもちろんのこと、理論や制度の分析を行う学生も、データを読む力は必ず役に立つと確信しています。

なお、本演習から始まる2年間のプログラムは、すべて各学生が担当教員や他の参加者とディスカッションしながら、個人で研究を進め、自力で卒論を完成させることを目的としています。グループ研究など、学生間での共同作業はやりません。他人に頼らず、自分で問題を発見し、自分で考えて自分で解決策を探し、論文を完成させるプロセスを思う存分経験し、達成感を味わってもらいたいと考えています。その過程でプレゼンテーションの技術、文章表現のテクニックも学んでいくことになります。もちろん、各自の考えをゼミで発表して大いにディスカッションはしてもらいたいですし、ゼミの活動以外でも交流を深めてくれればと思います。

卒論のテーマは、学習した分析方法や経済理論を用いた内容である限り、各学生が自由に選ぶことができます。担当者はこれまで財政学、政治経済学などの分野を専門とし、ミクロ経済学やゲーム理論を応用した理論分析を手掛けてきましたが、最近では修士課程の学生を中心に実証分析のアドバイスもしています。学生がゼミで報告する論文は必ず担当者も事前に読んでいって議論をします。ミクロ、マクロ、ゲーム理論の応用分析に関心がある学生は、演習Iでの実証分析の修練のあと、演習II以降で理論的な研究を進めることも可能ですし、大歓迎です。

関心のある人は、学部主催のゼミオリエンテーションの資料も参考にしてください。(なお、当ゼミはたとえ少人数でも、真摯に学問に取り組む学生を集めたいので、学生主催の非公式なオリエンテーションには参加しません)

授業の到達目標 Objectives

計量経済学の基礎を学び、実際にデータを扱った実習を行います。様々な計量モデルの構築方法、パッケージソフトの使い方、計量分析のアウトプットの読み方を一通り学習し、実証分析の論文をなんとか読みこなせるところまで訓練します。テキストは決して難しくありません。一步一步読み進めれば、必ず理解できます。学期の最後には、各自が関心のあるテーマの実証論文を探してきて、ゼミで報告できるようにする必要があります。実際、修士の学生も参加して開催する夏合宿で、学部生にも論文の報告を義務付けています。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示します

授業計画
Course Schedule

STATAを使った実証分析の実習を行います（Rを使ってもいいですが、担当者が使わないのでコマンドなどの指導ができませんから自力でやってもらうことになります）。演習Iで計量経済学の基礎をきちんと学んだ上で、演習II以降ではなるべく最新の論文、たとえばコロナ対策の効果を取り扱った論文など、アカデミックな論文を各学生が自由に選んで、一人毎週1つずつ読んでいく予定です。なお、必要に応じて、英文の教材を利用することもあります。

このゼミでは卒論作成までの2年間のプログラムを想定しています。いわば、アカデミックな意味で学生時代のモニュメントを作ってもらいたいと考えています。就職が決まったらゼミをやめようとか、卒業に必要な単位が足りたらゼミをやめてもいいというような、ゼミを学業のアリバイづくりに利用するつもりの方は遠慮してください。

教科書
Textbooks

田中隆一著「計量経済学の第一歩」（有斐閣）を用いる予定だが、もし非日本語話者の学生も参加する場合は、英文の計量経済学の教科書に変更するので、指定される前に購入する必要はありません。

参考文献
Reference Books

上記の教科書で一通り軽量経済画を学んだら、寺井公子他著「高齢化の経済学：地方分権はシルバー民主主義を超えられるか」（有斐閣）を読みます。高齢者の政治的影響力についての実証分析です。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	該当しない
レポート Papers	0%	該当しない
平常点評価 Class Participation	100%	出席状況、与えられた課題やプレゼンテーションへの取り組みで評価する。
その他 Others	0%	該当しない

備考・関連URL
Note・URL

長く更新していませんが、念のため、小西研究室のウェブサイトも参考にしてください。

<https://h.konishi.w.waseda.jp>

ゼミは概ね隔週で対面とオンラインで実施します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
304	国際政治経済学演習 I (齋藤純一)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	齋藤 純一
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

近現代の政治理論

授業概要 Course Outline

このゼミでは、自由、平等、公共性、デモクラシー、社会保障、社会統合など近現代の政治理論の主要なテーマを取り上げています。

ゼミの前半のパートでは、主に政治理論・政治思想史の重要な文献を取り上げ、その理解をはかるとともに、提起された論点について議論します。

この数年間に読んだのは、I. M. ヤング『正義と差異の政治学』、E. ブレイク『最小の結婚』、H. シュー『基本権』、岡野八代『ケアの倫理』、ジョアン・C. トロントの『ケアリング・デモクラシー』、杉田敦『自由とセキュリティ』などの著作です。2024年度秋学期にはM. フリッカー『認識的不正義』を読む予定です。

毎回のゼミの後半は、メンバーによる個人研究報告にあてています。個人研究報告は問題関心の共有をはかるとともに演習論文執筆の準備として行われます。

授業の到達目標 Objectives

政治理論・政治思想史のテキストを精確に理解し、議論を整理して考え、理由（論拠）を明確に挙げて自分の考えを伝える力を涵養することがこのゼミの目標です。そのうえで、現代の政治社会の制度や規範を評価し、その問題や改善の方向について自分の意見を形成できるよう指導したいと思います。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

あらかじめテキストを読み、各自内容の理解をはかるとともに、疑問点などを特定しておいてください。報告者や討論者としての役割を求められることもあります。準備時間は約2時間です。

授業計画 Course Schedule

2025年度春学期は、主にJ. ブレナン『アゲインスト・デモクラシー』を読み、デモクラシーの現状とエピストラシーの可能性と問題について理解を深めます。

教科書 Textbooks

ジェイソン・ブレナン(井上彰ほか訳)『アゲインスト・デモクラシー』上・下(勁草書房、2022年)。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	出席、報告、討論、研究発表、毎回の議論への参加・貢献等を総合的に評価します。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
305	国際政治経済学演習 I (清水和巳)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	清水 和巳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

人間と社会の政治経済学

授業概要 Course Outline

「不思議なものは多い。しかし人間ほど不思議なものはない」(ソフォクレス『アンチゴーネ』)
古代から現代に至るまで、人間はあらゆる学問分野で最大の謎であり続けてきた。社会科学はとりわけ人間と社会の関係に興味をもってきた。スミスは人間が利己的に行動しているにもかかわらず社会が破綻しないことを、ヴェーバーは資本主義という特殊な社会経済制度を支える人間が西欧という地域で生じたことを、マルクスは人間が作り出した社会が逆に人間を疎外していくことを不思議に思い、それぞれの謎に彼らなりの解答を用意した。とはいえ、こういう偉大な先達がとりこんだ大問題だけが謎なのではない。たとえば、海外旅行をしたときにあるレストランで食事をしたとしよう。「ここで食事することはおそらくもう二度とない」とわかっている、われわれはチップを払う。実はこれも(ある観点からすると)人間と社会に関する謎なのだ。

本演習の目的は、人間の意思決定・行動、その結果として生じる社会制度に関する謎を自分でみつけ、そこに社会科学的に切り込む方法を学ぶことにある。その際、「自分」にとっては謎だが、他人にはなぜそれが解くべき謎なのか理解できない、「自分」はその謎に答えたつもりだが他人は納得しない、こういう事態は避けたい。したがって、演習参加者は少なくとも以下の3点に関して自問自答してほしい。

- なぜ(どのような立場からすると)その問題を「謎」ととらえることができるのか?
- もし、その問題が本当に「謎」であるなら、それにどのように応答することが社会科学的と言えるのか?
- そもそも、社会科学的に思考するとはどういうことなのか?

授業の到達目標 Objectives

演習参加者は、自分の問題設定、問題の検討方法を他の参加者に理解させ、納得させるために必要な技術や方法を身につける。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：春休みの課題(Rによる計量分析講評) I
- 第3回：個別発表 1
- 第4回：個別発表 2
- 第5回：個別発表 3
- 第6回：基礎的知識の学習 1
- 第7回：基礎的知識の学習 2
- 第8回：基礎的知識の学習 3
- 第9～14回：各人の興味対象に応じて、既存の研究をグループで発表
- 14回目以降は夏合宿での卒論計画発表をふまえて、各人に報告を割り当てる。

教科書
Textbooks

特になし。事前に、文献リスト、課題となる論文等を配布する。

参考文献
Reference Books

第一回目のゼミナールにおいて参考文献リストを配布するが、制度の経済学、ゲーム理論、科学方法論などの分野を重点的に読んでいく。

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	50%	発表・レポートの出来・不出来に応じる。
平常点評価 Class Participation	50%	ゼミの時間中の議論の組み立て方に応じる。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

学生に対する要望：

- (1) 質問がある場合、次のアドレス宛てにメールで問い合わせること：skazumi1961@gmail.com。
- (2) 担当教員の「比較経済制度分析」を受講済みであること、加えて、ミクロ経済学、ゲーム理論、統計学、科学哲学に関する基本的な知識があることが望ましい。まだ「比較経済制度分析」を受講していない場合は、来年度受講することを強く勧める。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
306	国際政治経済学演習 I (高橋百合子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	高橋 百合子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

新興国・途上国の比較政治経済学
Comparative Political Economy of Emerging and Developing Countries

授業概要 Course Outline

本演習では、新興国・途上国の比較政治経済学で扱われるテーマについて実証分析を行うことを目指す。ゼミ生は、比較政治経済学の基本概念と理論、および主要なリサーチ・メソッドを学習した後、各自が関心を持つテーマについて実際に分析を行うことを予定している。

従来の比較政治経済学では、経済成長、福祉国家、労働市場等が主要なテーマとして扱われてきた。しかし、最近の研究では研究対象が広がりつつあり、例えば、インフォーマル部門の政治、貧困とクライアンテリズム、選挙不正、汚職、麻薬取引と暴力的犯罪、移民問題等について、政治経済学的観点から実証分析が盛んに行われるようになってきた。これらは、諸アクター間での公正性・公平性を欠く取引慣行、弱い法の執行、ガバナンスの欠如といった問題を抱える新興国・途上国の政治・経済システムに特徴的な現象である。新興国・途上国では、何故こうした現象が頻繁に起こるのか、その帰結は何か、問題解決に向けた政策的含意は何か。こうした一連の問いに取組むことが、本演習の主な目的である。

2025年度の国際政治経済学演習Iでは、新たな形で重要性を増しつつある移民・難民問題の政治経済的要因および帰結についての実証研究に重点を置くことを予定している。担当教員は、米州地域を専門とするが、他地域に関心のある学生も歓迎する。

ゼミ生は、卒業論文の執筆に向けて、ラテンアメリカ、アジア、アフリカの国・地域の事例に焦点を合わせつつ、「良い」リサーチ・クエスチョンを見つけ、妥当な仮説を導き出し、オリジナルのデータを収集し、手堅い実証分析を行うことが期待される。

This seminar introduces students to empirical analyses of comparative political economy with a special focus on emerging and developing countries. Students first study basic concepts and theories of comparative political economy as well as major research methods employed in this field, and then apply them to analyze a topic of their interests.

Traditionally, comparative political economy has focused on topics such as economic growth, welfare state, and labor market. More recent works cover a broader range of topics including the politics of informal sector, poverty and clientelism, electoral fraud, corruption, drug trafficking and violent crime, migration, etc. They are political economic problems particular to emerging and developing countries, because the political and economic systems are often characterized by unfair and unequal transactions among different actors, weak law enforcement, and poor governance. Analyzing the causes and consequences of these issues is the primary purpose of this seminar.

Seminar I in FY2025 will focus on empirical research on the causes and consequences of immigration and refugees, which have become increasingly important. The instructor will specialize in the Americas, but students interested in other regions are welcome.

Selecting the cases from Latin America, Asia, and/or Africa, students are expected to find a "good" research question, formulate plausible hypotheses, collect original data, and conduct a solid empirical analysis for their graduation thesis.

授業の到達目標 Objectives

本演習は、次の3点を到達目標としている。

1. 課題文献の輪読とゼミでの議論を通して、比較政治経済学における主要な議論とリサーチ・メソッドに習熟すること。
2. ゼミ生同士で活発な意見交換を行い、ディベートとプレゼンテーションのスキルに磨きをかけること。
3. 卒業論文の執筆を通して、現実社会における政治経済問題について専門知識にもとづく分析を行う能力を身に着けること。

The goal of this seminar is three-fold.

1. Through doing reading assignments and participating in discussion, students will get familiar with the major literature and research methods of comparative political economy.
2. Active interactions among seminar participants will help improve the debate and presentation skills.
3. An exercise of writing a thesis will make students well prepared to be a professional analyst engaging with political economic problems in the real world.

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

ゼミ生は、基礎レベルの計量分析について既に学習済みであることが望まれる。①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」もしくは「計量経済学1・2」を履修済みであることを前提に、演習を進める。

Students are expected to have taken courses on basic quantitative methods before attending this seminar.

授業計画 Course Schedule

<国際政治経済学演習I/Advanced Seminar (International Political Economy) I>

- *教科書（Baker 2014）等を中心に、新興国・途上国の比較政治経済学についての主要なテーマについて、基礎的な知識を身につける。
- *実際にデータを使って、新興国・途上国が直面する政治経済問題について、分析してみる。
- *We will read through the textbook (e. g., Baker 2014) and get familiar to key issues in the field of comparative political economy.
- *We will also try to analyze data on political-economic issues facing emerging and developing countries.

教科書 Textbooks

Baker, Andy. 2014. Shaping the Developing World: the West, the South, and the Natural World. CQ Press/Sage Publications.

Barakso, Maryann, Daniel M. Sabet, and Prian Schaffner. 2014. Understanding Political Science Research Methods: The Challenge of Inference. New York: Routledge.

Imai, Kosuke. 2017. Quantitative Social Science: An Introduction. Princeton: Princeton University Press.

World Bank. 2023. World Development Report 2023: Migrants, Refugees, Societies. Washington, D. C. : World Bank.

参考文献 Reference Books

適宜、指定する。
TBA.

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	課題、議論への参加・貢献、プレゼンテーションにもとづき総合的に評価を行う。 Evaluation will be made based on students' performances in essays, contribution to class discussion, and presentation.
その他 Others	%	

備考・関連URL Note・URL

1. 本ゼミは、EDPの学生にも公開となるため、英語を多用することをご承知ください。
2. 演習Iの開講前に、①選択必修科目の「比較政治学」、②「計量分析（政治）」の履修を済ませてください。これらの授業で扱う内容を理解したことを前提に、演習を勧めます。
3. 課題文献は、すべて英語となります。毎週、英語論文1本、もしくは英語で書かれた本の1－2章に相当する文献が課題として課され、それについて英語でペーパーを執筆することも求められます。この課題をこなすことは、単位の取得の必須条件となります。
4. 卒業論文では、定量的な実証分析を行っていただきますので、計量分析の基礎を習得していることが期待されます。
5. ゼミではR/RStudioを使用して、データ分析の練習も行う予定です。

Students are expected to conduct quantitative analysis for their graduation thesis. You should have mastered basic statistics.

We will use R/RStudio for data analysis exercises.

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
308	国際政治経済学演習 I (多湖淳)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	多湖 淳
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

戦争と平和の科学を楽しく学ぶゼミ

授業概要 Course Outline

国際政治学 (Scientific IR, Conflict and Cooperation) のゼミです。

- ・楽しく学ぶが大原則。高みを目指そう。
- ・アウトプットは英語で専門学術誌 (ジャーナル) に投稿して問題ないレベルを目指しましょう。

授業の到達目標 Objectives

- ・目標は、社会科学の総合力を身につける。
- 問題発見・問題設定力 まずは先行研究を読み、つなげる、そして仮説をつくる。
- データ入手・精製能力 データこそ命 (実験、テキスト、Large N、ケース比較)。
- データ分析・報告能力 RStudioとRMarkdownの力、データの検定・検証能力。
- コミュニケーション力 データを面白く話す力、英語力 (TED)、相手と対話する力。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

特になし

授業計画 Course Schedule

通年のゼミの内容は以下の通り。

- ・前期は基礎訓練と問題発見、仮説作り (面白い問い、理論と仮説)、データ入手
- ・後期はデータ精製と分析、論文執筆

論文はできればRMarkdownを用いてPDFの形で作成

タイプライターとしての「ワード」もいいけども、アウトプットはPDFで。

※これは3年、4年共通で、4年生は3年生よりも素敵な研究をして、報告する。

【訓練内容 (方法部分)】

- ・メソッド：分析道具がないと始まらない！

※方法論の概観 (因果、実験、回帰分析、ゲーム)

伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』 光文社。

山岸俊男 (2008) 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか』 集英社。

※クアルトリクス (実験プラットフォーム)：高等研のSongさんの教材も配布

<https://wasedapse.aul.qualtrics.com/>

※テキスト分析 (記述と関係の見える化)：高等研のWatanabeさんの教材

http://docs.quanteda.io/articles/pkgdown/examples/quickstart_ja.html

※RStudio (テキスト分析、回帰分析、実験データの仮説検証)：

日本社会心理学会の方法論セミナー資料 (まずはこれ！)

https://kazutan.github.io/JSSP2018_spring/index.html

Wonderful RのRの基礎、RStudioについてのテキスト

<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320112414>

Wonderful RのRMarkdownのテキスト

【訓練内容（国際政治をめぐる先行研究）】

・サブスタンス：科学的なIRを理解するための材料を読んでいます。

多湖淳（2011）「国際政治学における計量分析」『オペレーションズ・リサーチ』56(4)、215-220ページ。

多湖淳（2017）「拒否権行使と驚き」『政治分析方法のフロンティア（年報政治学）』2017-II、13-35ページ。

鈴木基史・岡田章編（2013）『国際紛争と協調のゲーム』有斐閣。

山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会。

ジャーナルは以下を参考に。APSR、AJPS、JOP、BJPS、IO、ISQ、IS、JCR、JPR、CMPS、II、AFS Google Scholar
で効率的に先行研究を見つけて読んでいく。

★スケジュール・重要事項

多湖ゼミSlackで連絡をします。プレゼミから変わらない時間帯のコアタイム制です。

Slackの招待を多湖（tago@waseda.jp）から得てください。

ゼミのコアタイムは毎週水曜日の夕方になります（17:00-18:40）。

教科書
Textbooks

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	60%	期末のプレゼンテーションをレポートとして評価する。
平常点評価 Class Participation	40%	ゼミへの参加の度合い（欠席がやむをえない場合、あらかじめメールで断りをいれるべきであり、無断欠席は2回でアウトカウントする）。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

本授業は、割り当てられた教室で開催します。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
309	国際政治経済学演習 I (唐亮)	春学期	JDP 3 年以上・2 単位 EDP 2 年以上・2 単位	唐 亮
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副 題 Subtitle

現代中国の政治経済と外交戦略

授業概要 Course Outline

1980年代以降、中国は改革開放路線の推進によって急速かつ持続的な発展を遂げ、世界第2の経済大国として浮上してきた。他方、キャッチアップ型近代化を実現していくには、内外の課題が多い。演習では、1) 中国モデルは欧米モデルと比べればどんな特徴を持つか、2) 産業の構造的な転換や貧富格差の克服に取り組んでいるか、3) エリートの選抜と権力競争は民主主義政治とはどこがどう違うか、4) 国民の政治意識と政治参加はどうか、5) どんな立場で欧米主導の国際秩序に臨んでいるか、6) いかなる戦略でアメリカ主導の対中包囲網を克服しようとするか、7) 台湾統一戦略のポイントはどこにあるか等々をトピックとして取り上げ、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

授業の到達目標 Objectives

現代中国の内政外交に関する幅広い基礎知識を有するほか、多文化の視点、複眼的な分析能力を身に付け、自主的な研究課題について豊かな構想力をもつことは理想である。また、学生の主体的参加と討論によってプレゼンテーションの能力を高める。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画 Course Schedule

春学期は教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の構想発表を行う。秋学期は引き続き教科書を毎週1章のペースで輪読するほか、ゼミ論の中間発表を行う

教科書 Textbooks

家近亮子ら編著『新版5分野から読み解く現代中国―歴史政治経済社会外交―』晃洋書房、2016年
唐亮『現代中国の政治』岩波新書、2012年
毛里和子『新版現代中国政治』第3版、名古屋大学出版会、2011年
毛里和子『日中関係―戦後から新時代へ』岩波書店、2006年
国分良成編著『中国は いま』岩波新書、2011年。
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013
丸川知雄『チャイニーズ・ドリーム』ちくま新書、2013
中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会
中兼和津次『開発経済学と現代中国』名古屋大学出版会、2012年
園田茂人『不平等国家 中国』中公新書、二〇〇八年。
木間正道ら編著『当代中国法入門』第五版、有斐閣、二〇〇九年
岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年
武田康裕『民主化の比較政治―東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年

参考文献 Reference Books

随時指定する

評価方法 Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	0%	実施しない
レポート Papers	70%	着眼点、先行研究の整理、論点を裏付けるデータ・根拠の提示、書式を重視する。
平常点評価 Class Participation	30%	出席・報告内容・議論への貢献度を重視する。
その他 Others	0%	なし

備考・関連URL Note・URL

夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
310	国際政治経済学演習 I (遠矢浩規)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	遠矢 浩規
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

国際政治経済学の理論と分析

授業概要 Course Outline

(1) 遠矢ゼミは国際政治経済学の理論や概念を学ぶゼミです。それらを習得し、自分自身で様々な国際問題を理解し分析する能力を身につけることを目標としています。当ゼミでは、「国際政治経済学」の意味を広く捉え、国際政治学（国際関係論）、国際経済学も範囲に含めています。

(2) とりあげる理論や概念は、例えば、プロダクト・サイクル論、国際的相互依存論、統合論、国際レジーム、グローバル・ガバナンス、ソフト・パワー、構造的権力、覇権安定論、パワー移行論、リベラルな国際秩序、ECLA構造主義、従属論、世界システム論、ドルの「法外な特権」、流動性のジレンマ、国際金融のトリレンマ、文化的多様性、地球公共財、ロゴウスキーの逆第二イメージ論などです（順不同）。これらの多くは講義科目「国際政治経済学」でも対象としています。

(3) 春学期・秋学期とも、事前学習を前提とした、いわゆる「反転授業」の形式で行います（詳細は下記「授業計画」(A)の通りです）。教員が何かを「教える」というゼミではなく、ゼミ生自身が「リサーチして」「考えて」「議論する」ことに重点を置いています。ただし、事前学習のコンテンツ（動画、論文、専門書など）でカバーしきれない、より専門的な内容について教員が各学期数回のレクチャーを行います。この場合も、授業後半にはゼミ生同士のグループ・ディスカッションを行います（ほぼ反転授業）。

(4) 夏休みにはゼミ合宿を行います（詳細は下記「授業計画」(B)の通りです）。正規の授業として行うものなので原則参加です（自由参加ではありません。欠席者は減点のうえ課題が課されます）。

(5) 4年生には上記(3)の3年生ゼミに原則参加してもらいます。グループディスカッションにおいて3年生をリードするチューター的な役割が期待されています。

(6) 4年生には卒論制作を奨励しています（必須ではありません）。卒論指導は個別指導と制作予定者からなるグループでの指導を併行して行います（詳細は下記「授業計画」(C)の通りです）。

(7) プレ演習（2年の冬クォーター）も上記(3)のゼミと合同で行います。数回実施します。

授業の到達目標 Objectives

①国際政治経済学（国際政治学、国際経済学を含む）の理論・モデル・概念を使って国際問題を分析する能力を習得すること。

②上記①の分析に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行うスキルを習得すること。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

下記「授業計画」を参照してください。

授業計画
Course Schedule

※ゼミの内容・方法についてはこのシラバスよりも、下記URLの遠矢浩規の公式サイト（遠矢ゼミ募集案内のページ）で図や写真や動画を使用してより詳しく説明しています。必ずそちらを参照してください。サイトは「遠矢浩規 公式」で検索することでもすぐ見つけることができます。

遠矢浩規公式サイト（ゼミ案内のページ）：<https://hirokitohya.wixsite.com/tohya/seminar-1>

以下は上記サイトからの抜粋です。

（A） 春学期・秋学期の通常ゼミの実施方法

【事前学習】

・事前に、指定されたコンテンツ（講義科目「国際政治経済学」のオンデマンド動画、学術誌の論文、専門書のチャプターなど）を学習し、与えられた課題（理論を当てはめて具体的事例を解釈するなど）について各自でリサーチを行い、コメント・ペーパー（A4で1～2枚程度）を作成・提出してもらいます。

※動画視聴や文献輪読自体が学習目的ではありません。

・事前学習のためのコンテンツ（動画URL、論文PDFなど）と課題はゼミのDiscordで事前に提示・共有されます。コメント・ペーパーもDiscordに提出してもらいます（全員で共有します）。なお、ゼミの日常的な連絡、情報交換、ファイル共有等はDiscordで行っています（LINEグループも併用しています）。

【ゼミ当日（反転授業）】

・毎回、教室で「対面」で行いますが、同時に全員がZoomを使用します。
※海外（留学中）や自宅・外出先からも（正当な理由があり事前に認められた場合は）オンラインで「出席」できます。
※教員（遠矢）は、教室またはオンラインでの参加（ほぼ交互）となります。

・予め決められた報告者（2人）が、当日のテーマとなっている理論・概念について、事前に学習したコンテンツとは異なる内容や視点でプレゼンを行います（つまり、事前学習したコンテンツを要約することがプレゼンではありません）。プレゼン資料はZoomで画面共有し（ハードコピーの配布は不要）、ゼミ後にDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

・事前に提示された課題やプレゼンで挙げられた論点等について、数人ずつのグループ・ディスカッションを行い、深く掘り下げます（班分けは当日、発表されます）。各グループでは司会、書記、総括報告者を決めてもらいます。ゼミの時間の大半はグループ・ディスカッションに費やされます。オンライン参加者（教室外）は、教員（遠矢）とZoomでディスカッションします。

・グループ・ディスカッション終了後、総括報告者が全体セッションで概要を報告し、各班の内容を全員で共有します。総括報告に続けて、適宜、教員（遠矢）からの解説や全体でのディスカッションを行います。

・グループ・ディスカッション以外のすべてのセッションはZoomで録画されます。グループ・ディスカッションの内容については、班ごとに議事録を作成してもらいます。

・春学期・秋学期ともに、教員（遠矢）が、数回のレクチャーを行います。レクチャーでは、事前学習のコンテンツでカバーしきれない、より専門的な内容や最新の研究動向などを説明します。レクチャー回でも、授業の後半はグループ・ディスカッションを行います。

【事後の作業・学習】

・ゼミの録画は直後にYouTubeで限定公開され、DiscordでURLが共有されます。欠席者は録画を視聴してキャッチアップしておくことが求められます。出席者も理解を定着させる復習のために利用できます。各班の議事録もDiscordにアップロードしてもらいます（全員で共有します）。

(B) ゼミ合宿（夏休み）

・合宿共通テーマを決めて、事前学習（合宿までに指定した論文を数本読む。課題に取り組む。プレゼンの準備をする）をしてもらい、合宿当日は、グループにわかれてプレゼンとグループ・ディスカッションを行い、最後に全体で討論します。「ワークショップ」型のゼミです。

・参考までに2024年度のゼミ合宿のテーマは、「地球温暖化問題において国際協力を実現する条件は何か」でした。6本の学術論文を事前に読んでもらいました。

(C) 卒論

・遠矢ゼミでは卒論制作を推奨しています（ただし、必須ではありません）。ゼミの成績評価は卒論の有無とはリンクしていません。ゼミはゼミのパフォーマンスだけで評価し、卒論の成績評価は「演習論文」の単位の中で行います。

・4年生には、卒論制作に関する約1時間のレクチャーの録画をまず視聴してもらいます。また対面ゼミでも卒論の書き方についてのレクチャーを春学期に一度行います。4年生には、それらを受講したうえで、卒論を制作するかどうかを決めてもらいます。

・卒論指導は、個別コンサルや卒論制作予定者のグループでの指導という形となります。対面、Zoom、LINEグループ、メールなどで、卒論のテーマ決定の相談から、リサーチ途中の相談、ドラフトへのコメントなどを行います。

・年度末のゼミで、卒論報告会を実施します。

教科書
Textbooks

教科書はありませんが、毎回、指定されたコンテンツ（オンデマンド動画、学術論文、専門書のチャプターなど）を学習し、与えられた課題（コンテンツで説明されていた理論やモデルを使って具体例を解釈する、など）についてコメント・ペーパーを事前に作成・提出することが求められます。

【参考】実際に出された「課題」は例えば次のようなものです。

「マルクシズム②従属論」の課題です。

（課題1）

ロストウの近代化論（経済発展段階説）と従属論（中心周辺構造）は南北関係について対照的な見解となっています。現実には、日本のように明治維新後、段階的に発展してきた国もあれば、ここ1世紀くらい経済的に成長していないと思われるような最貧国も存在しています。「近代化論」のシナリオと「従属論」のシナリオは、どのような条件を満たす国家・地域に当てはまるのでしょうか？

（課題2）

従属論はECLA構造主義（輸入代替工業化）と異なり、外国資本の導入（多国籍企業）を害悪視しています。一方、東アジアのように先進国の資本を誘致して「輸出志向型発展」を実現させた国・地域もあります。「経済特区地域」を設定して先進国企業を優遇し（法人税減税、労働基準緩和など）、技術移転や工業化を図る国もあります。「外国資本」「多国籍企業」を途上国（周辺国）の発展に利用するためには、どのような条件が必要でしょうか？

（課題3）

「世界資本主義」（グローバル・キャピタリズム）の功罪として何が考えられるのでしょうか。従属論はマイナス面だけを指摘しますが、世界資本主義の「良い面」やメリットはあるのでしょうか（例えば、グローバル・バリュー・チェーンによる途上国の工業化・技術獲得・雇用創出なども考えられそうです）。

（課題4）

周辺国の国内に「中心」部と「周辺」部があり、前者は中心国（先進国）と結託しているという指摘は、妥当でしょうか。具体例はあるでしょうか。

参考文献
Reference Books

毎回扱う理論・モデル・概念が異なるため、必要に応じて、その都度、紹介します。

評価方法 Evaluation		
	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	%	
その他 Others	100%	・成績評価は次の手順で行います。 ①デフォルトの評価はAです。マイナス査定、プラス査定を順に行い、プラマイ0か、ちょっぴりプラス程度なら評価はAのままとします。トータルでマイナスならB、トータルで大きくプラスならAプラスとします。 ②マイナス査定（その1）。欠席は2回まで不問に付します。3回以上の欠席は回数に応じて減点します。無断欠席は倍の減点となります。 ③マイナス査定（その2）。コメントペーパー提出回数が定められた回数に満たない場合は、減点します。 ④マイナス査定（その3）。重大なミス等（プレゼンし忘れなど）は減点します。 ⑤プラス査定（その1）。プレゼンは、(a)教員（遠矢）が授業で利用したくなりそうなほど興味深い内容である、(b)上記(a)には及ばないがよくリサーチしてある、(c)上記(b)に及ばない、の3ランクで評価し、(a)は加点します。(b)は総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。なお、(c)であってもマイナス査定には使用しません。 ⑥プラス査定（その2）。コメントペーパーは、「よくリサーチし」かつ「よく考えている」かを評価指標とし、(a)非常に努力している、(b)普通、(c)努力不足、の3ランクに評価したうえで、トータルで(a)の評価のペーパーを多く書いた者に加点します。トータルで(b)が多かった者でも、定められた回数より多く提出した者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。(c)が多い者は原則不問に付しますが、程度によってマイナス査定にする可能性があります（なんでもいいから出せばいい、では困るので）。 ⑦プラス査定（その3）。グループ・ディスカッションの相互評価で評価の高かった上位者（3年と4年で各数名づつ）は加点します。この項目のみ、3年と4年はわけて評価します（3年は4年に物を言いにくいだろうから）。※学期末に全員に相互評価票を提出してもらいます。 ⑧グループ・ディスカッションで司会・書記・総括報告者をやった回数を合計し、総回数が非常に多い者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。 ⑨ゼミの欠席ゼロだった者は、総合判断の際にボーダーライン上であれば加点要素とします。

備考・関連URL
Note・URL

下記URLの遠矢ゼミ募集案内を必ず事前に参照してください。
<https://hirokitohta.wixsite.com/tohya/seminar-1>

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。
履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。
The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.
Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.
<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
311	国際政治経済学演習 I (戸堂康之)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	戸堂 康之
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

開発経済・国際貿易・日本経済に関するデータ分析

授業概要 Course Outline

この演習では、経済成長論、国際経済学、開発経済学を主たるツールとして、日本・新興国・開発途上国における経済発展や経済の強靱性について学び、研究する。定量的な実証的研究に重点を置くため、理論的研究、定性的な実証研究を研究したい学生には受講を勧めない。

例えば、以下のようなテーマに興味を持つ学生に最適だと考えられる。

- グローバル・バリューチェーンの拡大は日本企業にどのような影響があるか
- 災害の経済被害に対してどのような支援が有効か
- 途上国における農村や零細企業の発展はどのようにして達成できるか
- 開発援助は途上国の人々の生活向上に効果があるのか

この演習は以下のようなスケジュールで進む。

I (3年春学期): データ分析手法の学習・演習

II (3年秋学期): データ分析に関する英語論文講読・同様の手法を使った演習

III・IV (4年): 卒論のテーマを決め、関連する既存研究を発表し、データを収集して分析する。いくつかのインゼミで発表した後、卒論を作成する。

3年次の年度末および卒業時には論文の提出を義務付け、最終的には質の高い卒業論文を書くことが最大の目標である。

なお、毎年韓国において日本と韓国の主要大学とのインターゼミナールを、日本において本学英語プログラムおよび慶応大学の開発経済系ゼミとのインターゼミナールを行う。韓国でのインゼミは希望者のみで行うが、本学英語プログラムおよび慶応とのインゼミは全員が出席し、特に4年生は全員が卒論を発表する。韓国でのインゼミ、本学英語プログラムとのインゼミは英語で行う。

夏休み期間中に、途上国などで現地調査、企業訪問などを行うことがある(希望者のみ)。

授業の到達目標 Objectives

以上のような演習を通して、開発途上国・新興国・日本の経済発展に関する知識を高めるばかりでなく、

- (1) アイデアを創出する能力
- (2) 情報・データを収集する能力
- (3) データを基にして論理的な分析を行う能力
- (4) 分析結果を文章や口頭発表によって効果的に人に伝える能力
- (5) 英語力
- (6) リーダーシップ

を養成することがこの演習の目標である。

事前・事後学習の内容
Preparation and Review

適宜、授業内で担当教員より指示する

授業計画
Course Schedule

計量経済学、ネットワーク分析、GIS（地理情報システム）分析などのデータ分析手法を学習し、演習によって身につける。

教科書
Textbooks

適宜指示する。

参考文献
Reference Books

評価方法
Evaluation

	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examinations	%	
レポート Papers	%	
平常点評価 Class Participation	100%	自身の発表、演習および他人の発表に対する質問・コメントを評価する。
その他 Others	%	

備考・関連URL
Note・URL

担当教員のウェブサイト（<https://sites.google.com/view/yastodo>）と添付ファイルをよく読み、担当教員の研究内容、およびゼミ運営の方針を理解しておくこと。

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>

国際政治経済学演習 I

2025

整理番号 No.	科目名 Course Title	学期 Term	配当年次・単位 Eligible Year・Credits	担当教員 Instructor
312	国際政治経済学演習 I (深川由起子)	春学期	JDP 3年以上・2単位 EDP 2年以上・2単位	深川 由起子
算入科目区分 Course Category				
JDP 2019年度以降入学者		演習科目 > 上級・専門科目		
JDP 2014～2018年度入学者		所属学科目(政治/経済/国際政治経済) > 専門演習 ※演習科目の所定4単位の要件も満たす		
EDP Entered in or after 2019		Seminars > Advanced/ Specialized Courses		
EDP Entered in or before 2018		Workshops & Seminars (Required Credits)		

副題 Subtitle

現代東アジア政治経済研究：変容するグローバリズムと新興国の経済発展

授業概要 Course Outline

東アジア（本演習では韓国や台湾などのNIEs、中国、ASEAN及びその周辺としてのインドまでを主として扱う）はラ米や中近東などと比較しても伝統的にその「多様性」が強調される地域で、経済発展においても同様であった。他方、新興国としては比較的グローバリゼーションの受容に積極的であったことから、開放的な貿易や投資を通じた経済発展は1990年代から2000年代にかけては「東アジアモデル」として一般化され、他国の開発にも大きな影響を与えた。しかしながら、開放性故に世界経済の構造変化の影響は大きく、地域統合が制度的にも実質的にもEUほど高いレベルにないため、地域統合がグローバル化の負の側面からの十分なバッファーになっていない。

結局、先進国入りを果たせたのはNIEsのみで、ASEANや中国の一部についてさえも貿易/直接投資主導型成長の限界や、内部要因による「中進国の罠」が取り沙汰されている。少子高齢化といった人口動態の変化や地政学上の機会とリスクの浮上、通貨危機に端を発した社会の求心性弱体化、中国の内向き化などもあり、「東アジアモデル」は再び「多様性」に分裂回帰する面がある。本演習は政治と経済が現実に出会う場として、また日本経済が大きな利害を共有する東アジアを取り上げ、伝統的な経済発展メカニズム（「東アジアモデル」）と、「中進国の罠」に象徴されるその限界、変容、改革課題について議論を進める。東アジアの経済発展はグローバリゼーションと不可分で、現実が理論に先行しがちな点も少なくないが、とりわけIでは新たな理論の知見と現実との接点を意識しながら「東アジアモデル」とはなのか、基礎知識や分析ツールを身につけながら考察を進める。

授業の到達目標 Objectives

東アジアの開発体験をめぐる主要な論点について基礎的、理論的な知識とを深めると共に、与えられた問いに沿って自分の論理を構築できるようにすること。問題意識を持って同時代の諸問題を考えられるようになること。幅広い問題の中から自分が相対的に関心を持つ問題を発見し、社会科学に必要な分析ツール（計量手法や実験）を使って分析できるようになること。

事前・事後学習の内容 Preparation and Review

毎回の発表準備と共に、課される参考文献を読んでレポートを作成。フィードバックを見ながら修正して次回には再提出する。

授業計画
Course Schedule

第1回：オリエンテーション（本演習の目的と概要）

プレゼミで学んだことを基礎に、演習の概要と具体的な運営方法を討議します。夏や冬に行われるゼミ合宿の計画も立てます。

第2回：東アジアの経済パフォーマンス：「奇跡」の経済発展と新たな発展モデルの模索

東アジアが今日の経済発展の基礎を築いた1986～1996年がどのように開発経済史に残る「奇跡」だったか、それは何故、可能となったのかを考察します。

第3回：輸入代替工業化の政治経済体系

第2回で学んだ開発戦略の転換は何故、東アジアでのみ、可能となり、ラ米や南アジアとはどこが違うのか、を理論的実証的な議論を整理します。

第4回：輸出主導型工業化の政治経済体系

輸入代替型工業化と輸出主導型といわれる体系の違いは何か、東アジアでは何故、輸出主導型に転換し得たのか、政治経済的な背景を分析します。

第5回：国際分業と産業集積

新興経済にとっての貿易のメリットとグローバリゼーションの中で顕著となってきた産業集積の形成はどのような関係にあるのか、東アジアを事例として学びます。

第6回：直接投資と技術移転

直接投資を誘致できるためには何が必要か、また受け入れた外国企業からどのような技術の移転やスピルオーバーが可能となるのか、現実の東アジアの事例を含めて考えます。

第7回：工業化と産業政策：政府の役割

工業化を推進する上で政府はどこまで、どのように介入することが望ましく、何がそうではないのか、1980年代から2010年代までを比較検討し、東アジアの事例がどういった議論を提供してきたのか、学びます。

第8回：経済発展と金融の深化

実体経済と資本蓄積、金融の深化のバランスは何故、持続的発展に重要なのか、そのためにはどういった金融政策が望ましいのか、東アジアにとっては何故、このトピックが重要なのかを中心に学習します。

第9回：金融・資本の自由化

現代グローバリゼーションの特徴の一つは金融のグローバリゼーションの量的、質的变化です。新興経済はこれにどう付き合うべきか、東アジア通貨危機の要因となった金融・資本自由化のプロセスについて考察します。

第10回：新興国の企業集団

東アジア通貨危機の特質は新興巨大企業集団（民間企業）の対外債務でした。創業者一族になる所有・経営が未分離の企業がグローバルな企業金融にどう対応したのか、今日、どのような改革が必要なのか、考えます。

第11回：為替管理の自由化と国際収支危機

グローバリゼーションの下では脆弱な新興経済は様々な経済危機に陥りがちです。東アジア通貨危機はその典型であり、流動性をめぐる構造調整を累積債務危機同様に進めたことにはIMFの処方箋をめぐっても多くの批判がありました。この回では金融のグローバリゼーションと新興国の危機の原因や処方箋のあり方について考察します。

第12回：通貨危機後の構造調整と社会政策

「奇跡」から一転、未曾有の「危機」を経験した東アジアはグローバル経済の変容に沿う構造改革を迫られましたが、社会に残した傷跡は大きく、現在まで続く格差や社会的求心力低下の大きな要因となりました。構造調整後における社会的安全網の在り方から今日に至る社会政策の在り方を考えます。

第13回：新興国のイノベーション

急速に進むデジタル技術は新興国にとってはイノベーションの大きな起爆剤となっており、多くの中進国にとってはイノベーションを加速できるかどうか、先進国入りを左右します。技術の外部性や研究開発体制を検討し、イノベーションの実効性について議論します。

第14回：地域経済統合と協力

東アジアでは新興国が大半を占めて自国産業保護の規制が多く、地域経済統合は十分な成果を出しているとはいえません。ASEAN域内、包括的経済連携協定（RCEP）、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）など広域統合も錯綜しています。地域経済統合の成果とその限界について議論します。

教科書
Textbooks

特になし。授業時に配布の回毎のシラバス、リーディング・リストによる。

参考文献
Reference Books

同上。

評価方法 Evaluation

	割 合 (%) Percent (%)	評 価 基 準 Description
試 験 Examinations	0%	試験形式では成績評価は実施しない。
レポート Papers	70%	毎週、課されるレポートの内容評価を平均して算出する
平常点評価 Class Participation	25%	プレゼンテーションや議論の水準、ディスカッションへの参加程度など。
そ の 他 Others	5%	現地視察やゼミの運営、とりまとめへの貢献など。

備考・関連URL Note・URL

政治経済学部では以下リンクの通り、学修成果を定めています。

履修登録やご自身の成果確認の際、ご参考ください。

The School of Political Science and Economics defines the learning outcomes in the link below.

Please refer to this when registering for courses and checking your achievements.

<https://waseda.box.com/v/SPSE-Learning-outcomes>